

先輩たちが、今に至るまでに歩んだ道のり。

(すなわちあなたの未来予想図)

このチャートの中には10年、20年前に糖尿病と診断された先輩の今が、

そして今に至るまでにたどってきた過去が記されています。

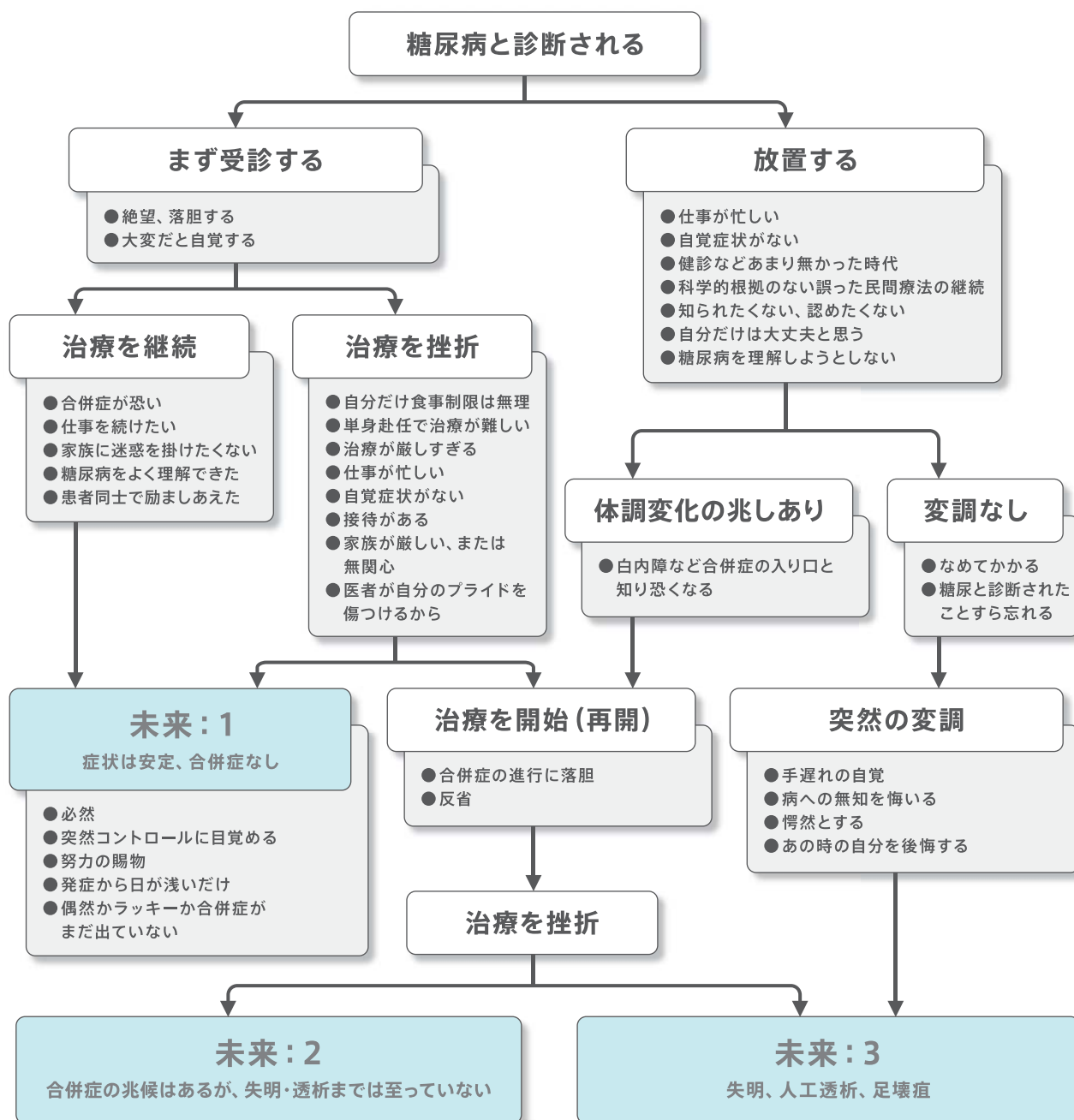
糖尿病といわれてなぜ治療をないがしろにしたのか。なぜ治療に励んだのか。

先輩たちの声に耳を傾けると人生の局面局面で、この病気と向き合う「難しさ」、「辛さ」、

「なめてかかる気持ち」が痛いほど分かってきました。でも、放置すれば自然の摂理は無情です。

人生でどんなに治療が困難になろうとも治療を怠った者には厳しい未来が用意されているのです。

先輩たちの歩んだ道を今一度見て、糖尿病治療を最優先すべき自分ごとにしてください。





最後に、先輩からのメッセージ

「糖尿病治療は本人の心の持ち方次第」 Kさん

40代で仕事のストレスが溜り、暴飲暴食の日々。

検査の結果、血糖値が600となり即日入院でした。まさか!と驚くのみ。ただ呆然。宣言されたことのショックを受ける。入院中、糖尿病網膜症から失明した患者さんに病気の怖さを教えられました。

医師に何を言われるより、患者さんの話を聞いたり見たりすることが一番効果があります。

その後、多少の起伏はあるが、通院は欠かさず続行。長い間には精神的挫折感は当然ありますが、

糖尿病の三文字が背後霊になっています。糖尿病治療の本質は、本人の気持ち次第。

心を強く持って病気と向き合ってください。

(静岡県・2型糖尿病歴28年・78歳・男性)

「くじけるな」 Hさん

痛くもかゆくもなかったから、糖尿病を甘く見ていたのだと思う。網膜症から左目失明。

家族は「自業自得や」とあきれていました。ここで目がさめました。

右目もみえにくくなり、真剣に糖尿病と向きあうことになりました。毎日の治療に

「くじけそうになることがあっても、自分は瀬戸際だ。失明は怖い」とがんばらざるを得ません。

若い人には「症状がなくても、きちんと診療を受けて欲しい。誰のためでもない、自分のため。

それがひいては家族のためにもなるのだから」と言いたい。

(愛媛県・2型糖尿病歴30年・61歳・男性)

「早めに病院へ」 Lさん

自分のからだの異変に気づいたのは1年8ヶ月前のことです。急に目が見えにくくなり、

近所の病院へ眼底出血との診断で、大学病院を紹介されそこで糖尿病網膜症と診断されて、

ショックでした。それから4ヵ月後、両目ともガラス体手術を受け、計5回です。

左目は網膜剥離で視力が0.2しか戻りません。もっと早く病院に行っておけばよかったと、

今は思っています。糖尿病と診断されたら、早目に病院に行きましょう。

(愛知県・2型糖尿病歴7年・27歳・女性)

「軽視しないで」 Mさん

「後悔先に立たず」糖尿病腎症を患い、ベッドに4時間くりつけられる人工透析を

1日おきに受けています。この原因は30年来主治医や栄養士さんからの指導などを聞かず、

治療を怠ってきたためだと思います。「お迎え」がくるまでつづけなければならないので、

たいへんな苦痛です。皆さん、糖尿病を軽視しないでください。

(宮城県・2型糖尿病歴30年・75歳・男性)